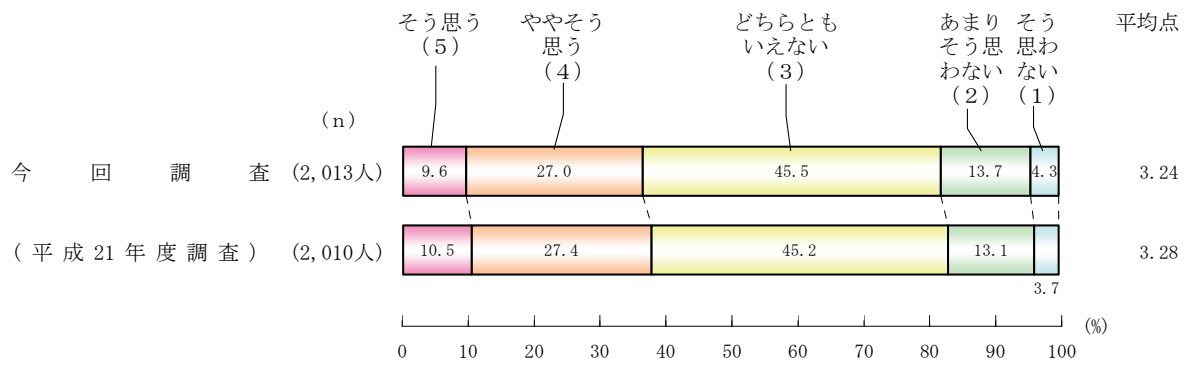
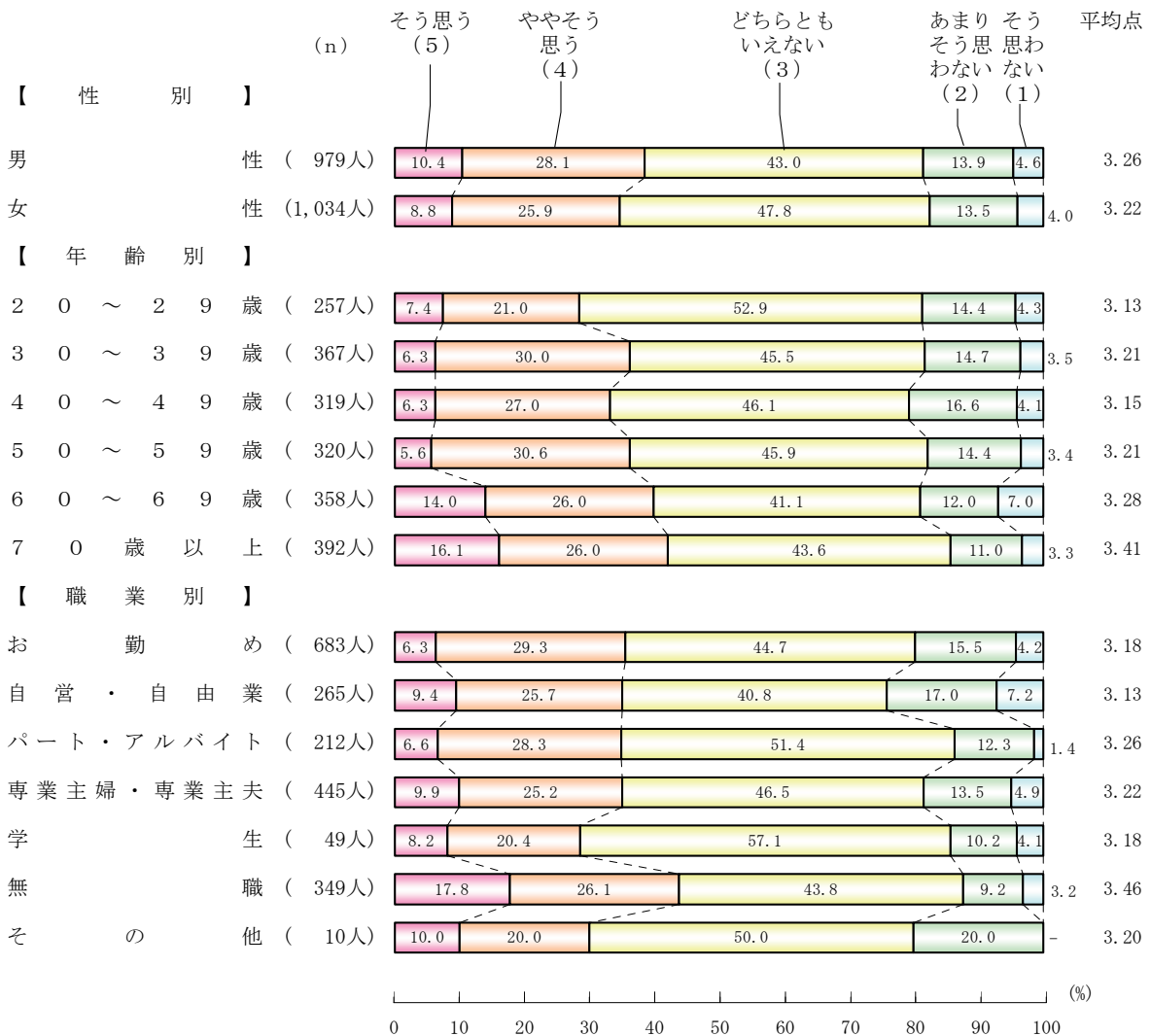


Q4 (d) 納得できる裁判(判断)が行われている

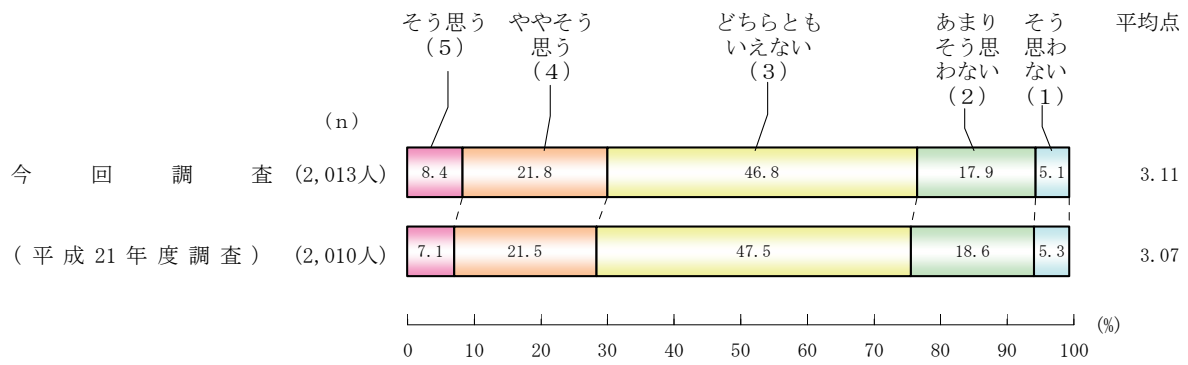


裁判員制度が始まる前の『納得できる裁判(判断)が行われている』という印象では、『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)は36.6%、『そう思わない』(「あまりそう思わない」+「そう思わない」)は18.0%である。平成21年度調査と比べて、大きな変化はみられない。

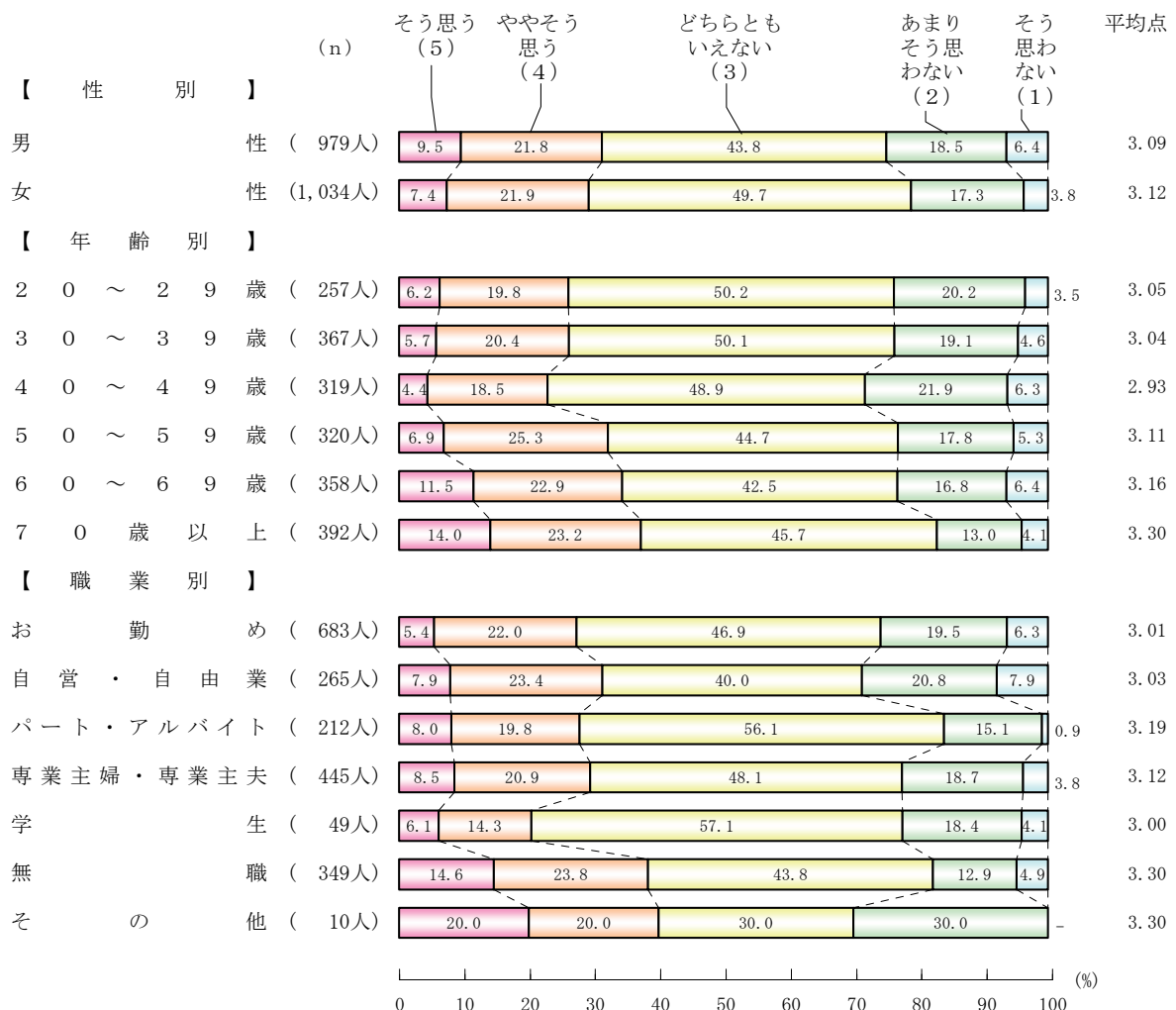


『納得できる裁判(判断)が行われている』という印象について、『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)と答えた者の割合は、男女別にみると、大きな差はなく、年齢別にみると、70歳以上で高く、20代で低い。職業別にみると、無職で高くなっている。

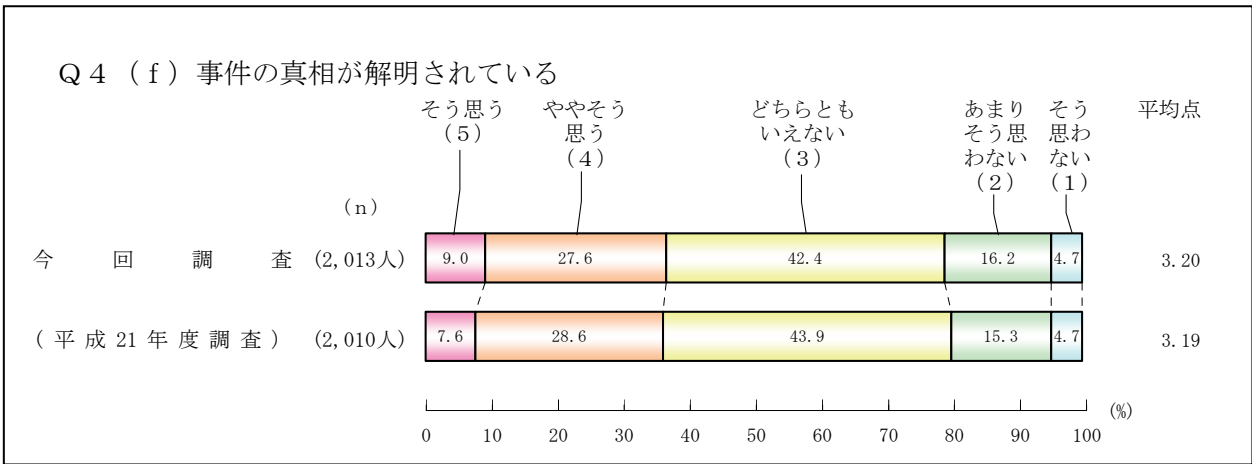
Q 4 (e) 国民の感覚が反映された裁判 (判断) がされている



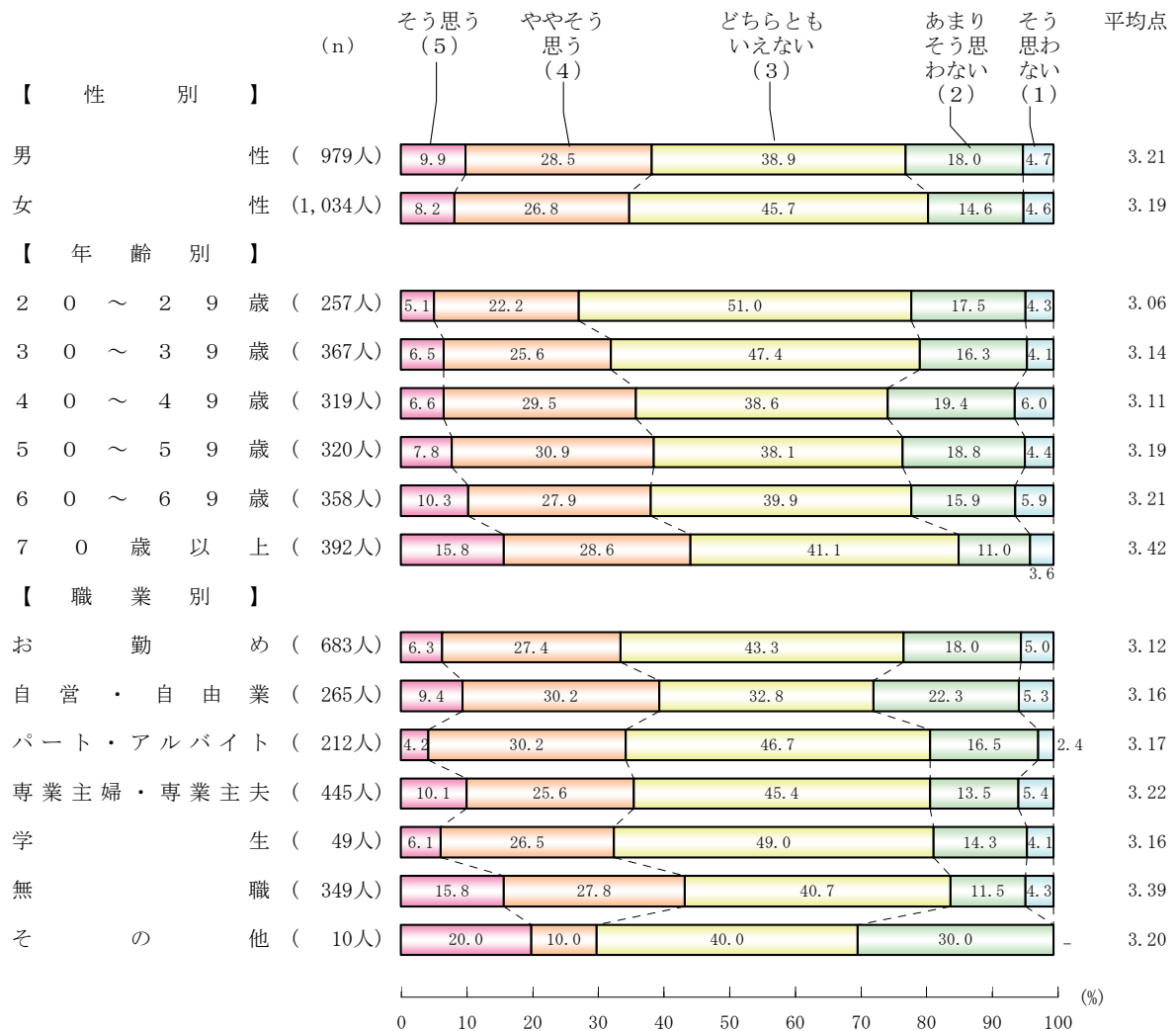
裁判員制度が始まる前の『国民の感覚が反映された裁判 (判断) がされている』という印象では、『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)は30.2%、『そう思わない』(「あまりそう思わない」+「そう思わない」)は23.0%である。平成21年度調査と比べて、大きな変化はみられない。



『国民の感覚が反映された裁判 (判断) がされている』という印象について、『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)と答えた者の割合は、男女別にみると、大きな差はなく、年齢別にみると、40代で低く、70歳以上で高くなっている。職業別にみると、無職で高くなっている。

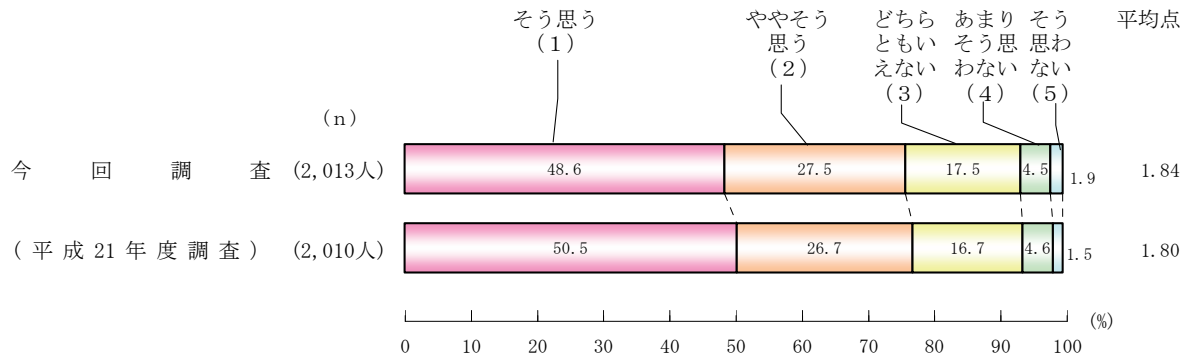


裁判員制度が始まる前の『事件の真相が解明されている』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は36.6%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は20.9%である。平成21年度調査と比べて、大きな変化はみられない。

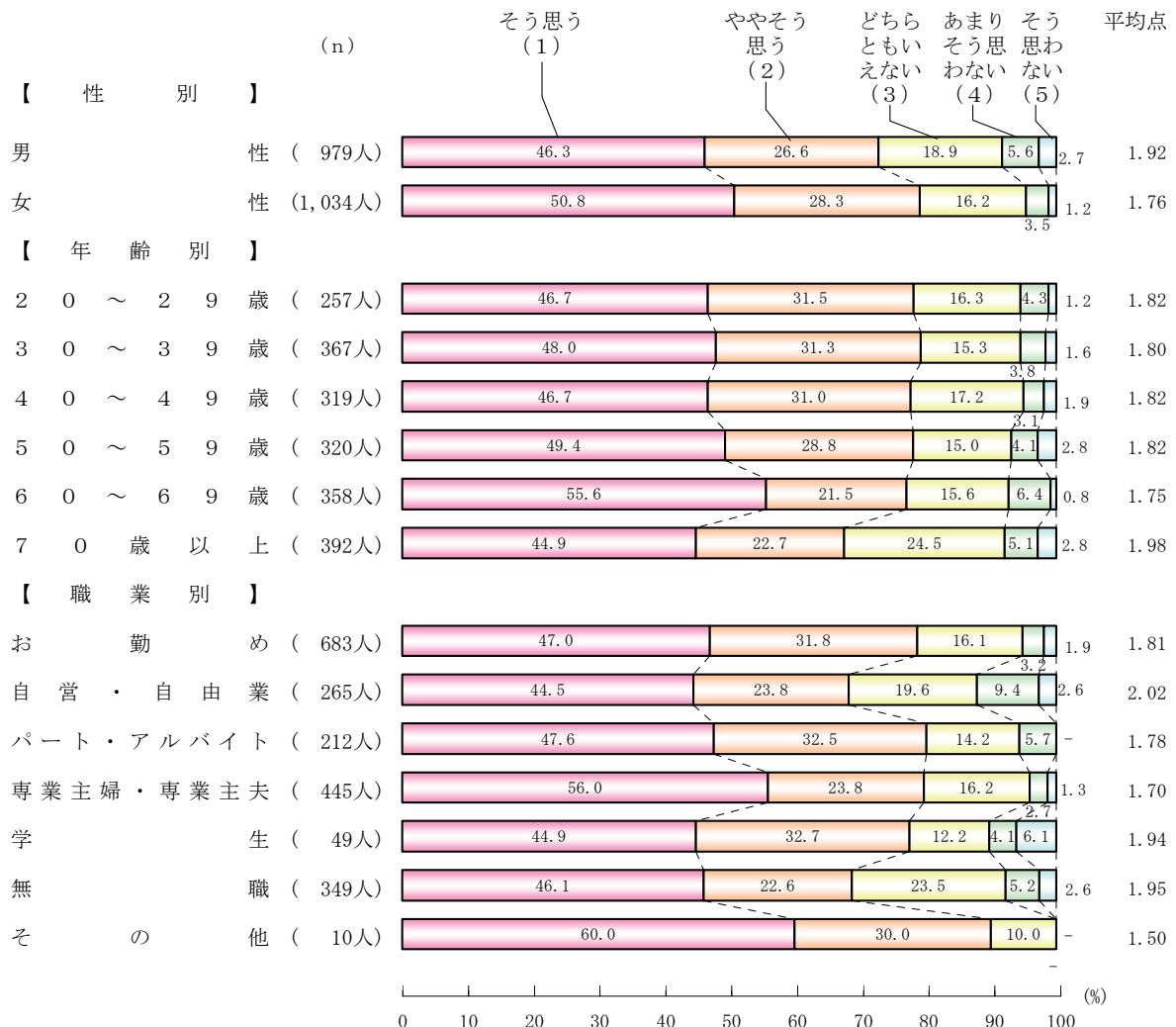


『事件の真相が解明されている』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、大きな差はなく、年齢別にみると、70歳以上で高く、20代・30代で低くなっている。職業別にみると、無職が最も高い。

Q 4 (g) 裁判の手續や内容が難しい, わかりにくい

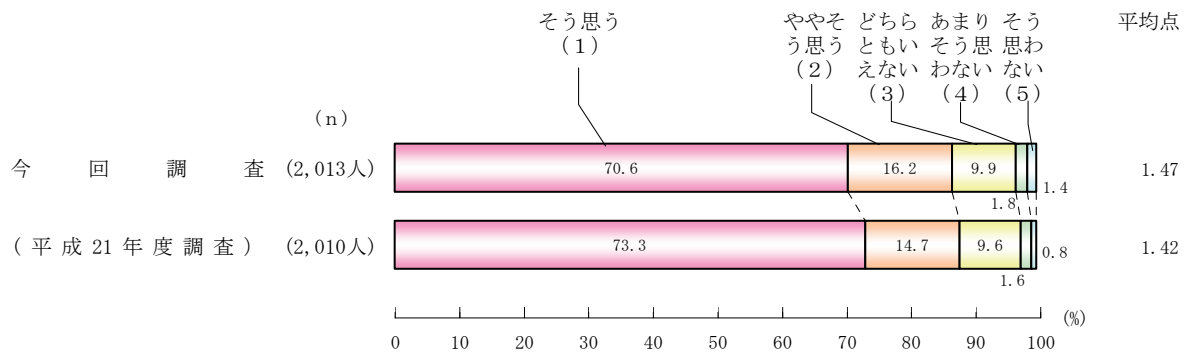


裁判員制度が始まる前の『裁判の手續や内容が難しい, わかりにくい』という印象では, 『そう思う』(『そう思う』+『ややそう思う』)は76.1%, 『そう思わない』(『あまりそう思わない』+『そう思わない』)は6.4%である。平成21年度調査と比べて, 大きな変化はみられない。

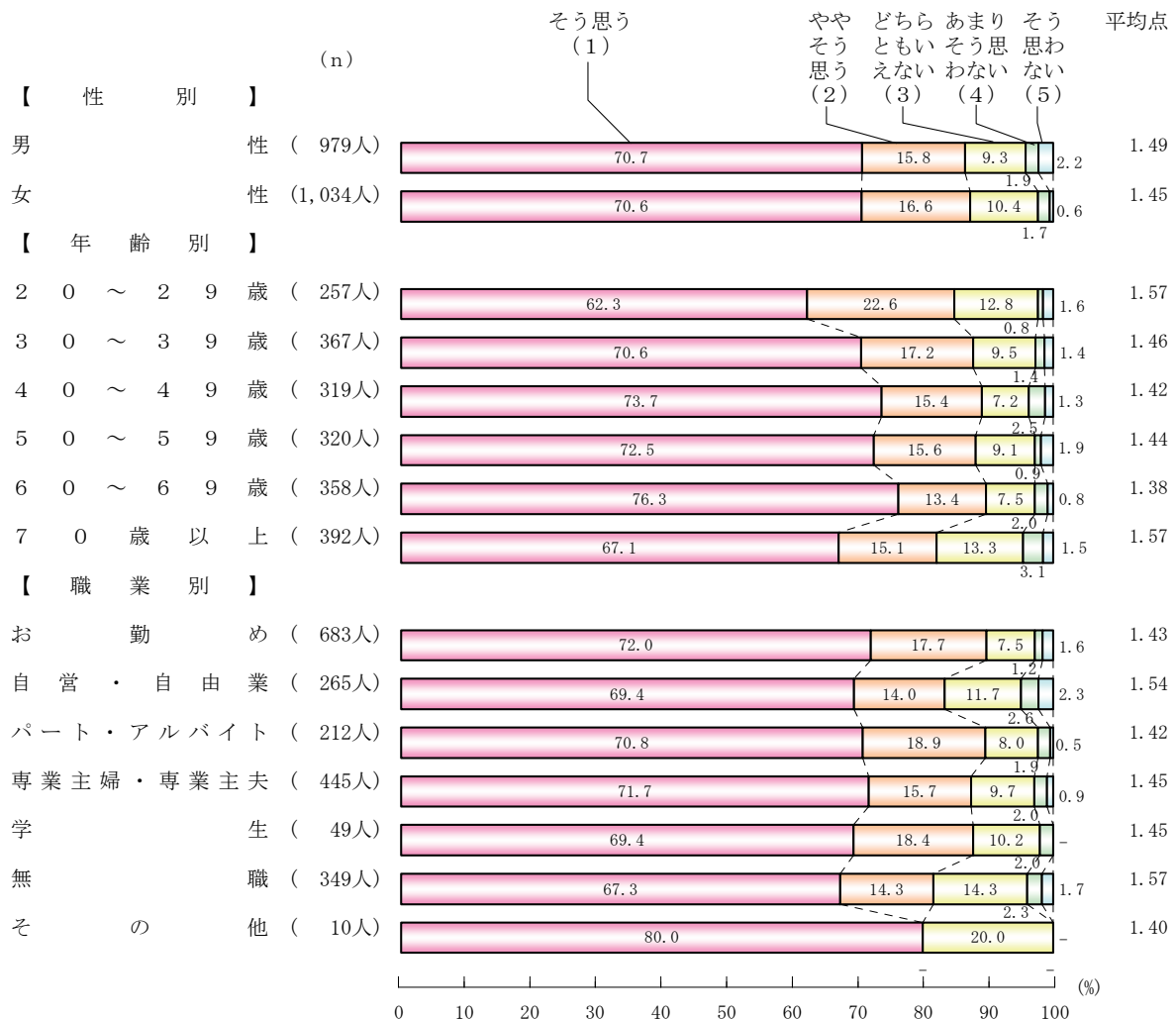


『裁判の手續や内容が難しい, わかりにくい』という印象について, 『そう思う』(『そう思う』+『ややそう思う』)と答えた者の割合は, 男女別にみると女性で高く, 年齢別にみると, 70歳以上で低くなっている。職業別にみると, 自営・自由業と無職で低くなっている。

Q 4 (h) 裁判に時間がかかる

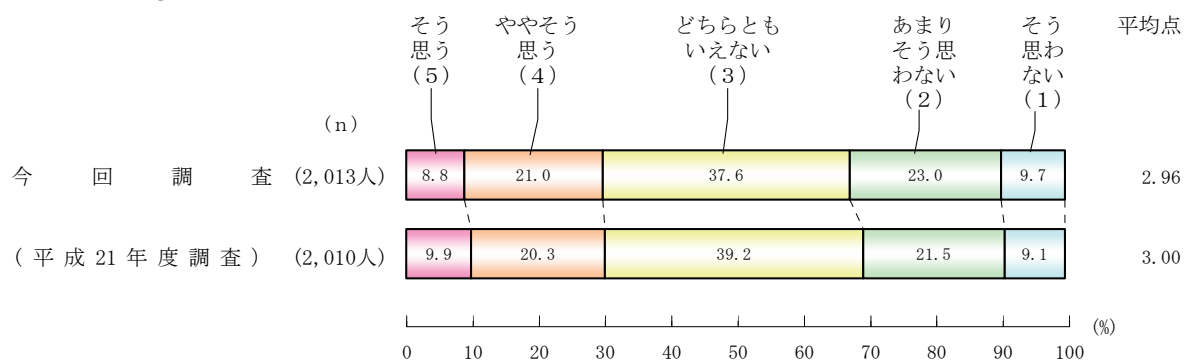


裁判員制度が始まる前の『裁判に時間がかかる』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は86.8%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は3.2%である。平成21年度調査と比べて、大きな変化はみられない。

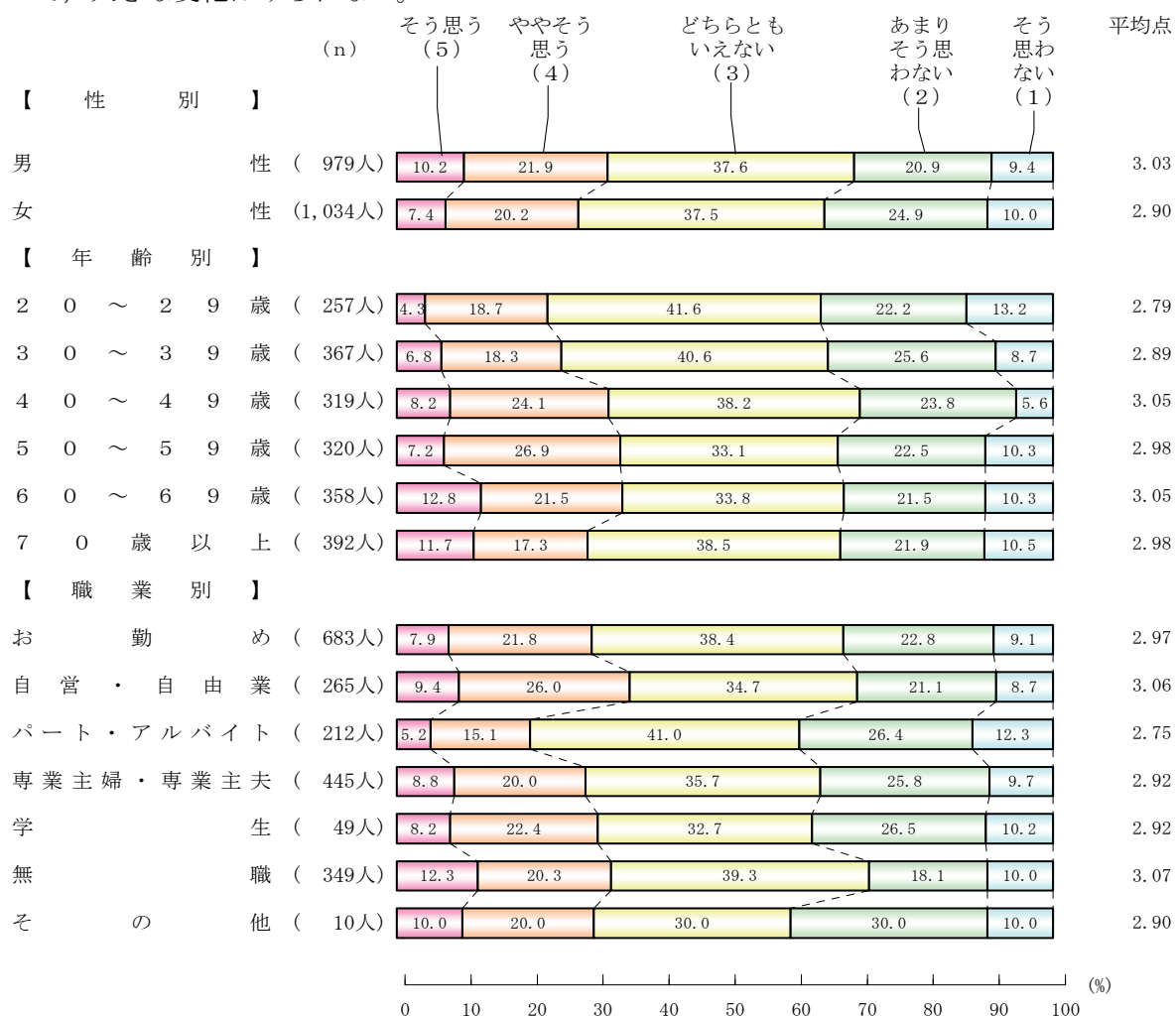


『裁判に時間がかかる』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、ほとんど差がなく、年齢別にみると、70歳以上で低くなっている。職業別にみると、お勤めが最も高く、無職が最も低くなっている。

Q4 (i) 刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が高く自分の問題として考えている



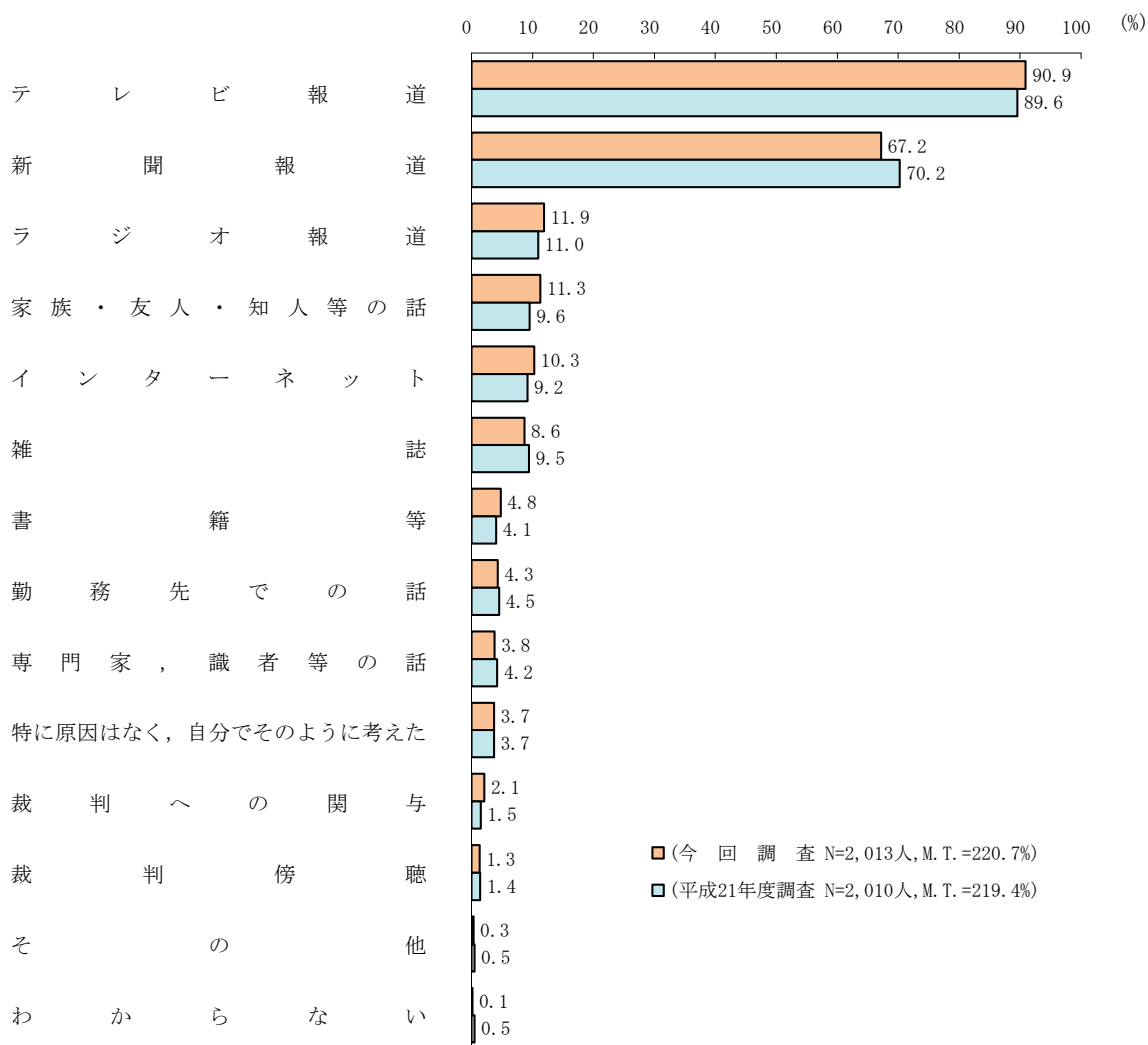
裁判員制度が始まる前の『刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が高く自分の問題として考えている』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は29.8％、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は32.7％である。平成21年度調査と比べて、大きな変化はみられない。



『刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が高く自分の問題として考えている』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、男性で高く、年齢別にみると、20代が最も低く、職業別にみると、自営・自由業で高く、パート・アルバイトで低くなっている。

5 裁判員制度が始まる前の刑事裁判についてQ4の印象を持つことになった原因

Q5 [回答票5] あなたが前問のような印象を持つことになった原因は何ですか。この中からいくつでもあげてください。(M. A.)



裁判員制度が始まる前の刑事裁判についてQ4の印象を持つことになった原因を聞いたところ、「テレビ報道」が90.9%と最も高く、次いで「新聞報道」が67.2%であった。以下、「ラジオ報道」(11.9%)、「家族・友人・知人等の話」(11.3%)、「インターネット」(10.3%)となっている。平成21年度調査と比べて、大きな変化はみられない。

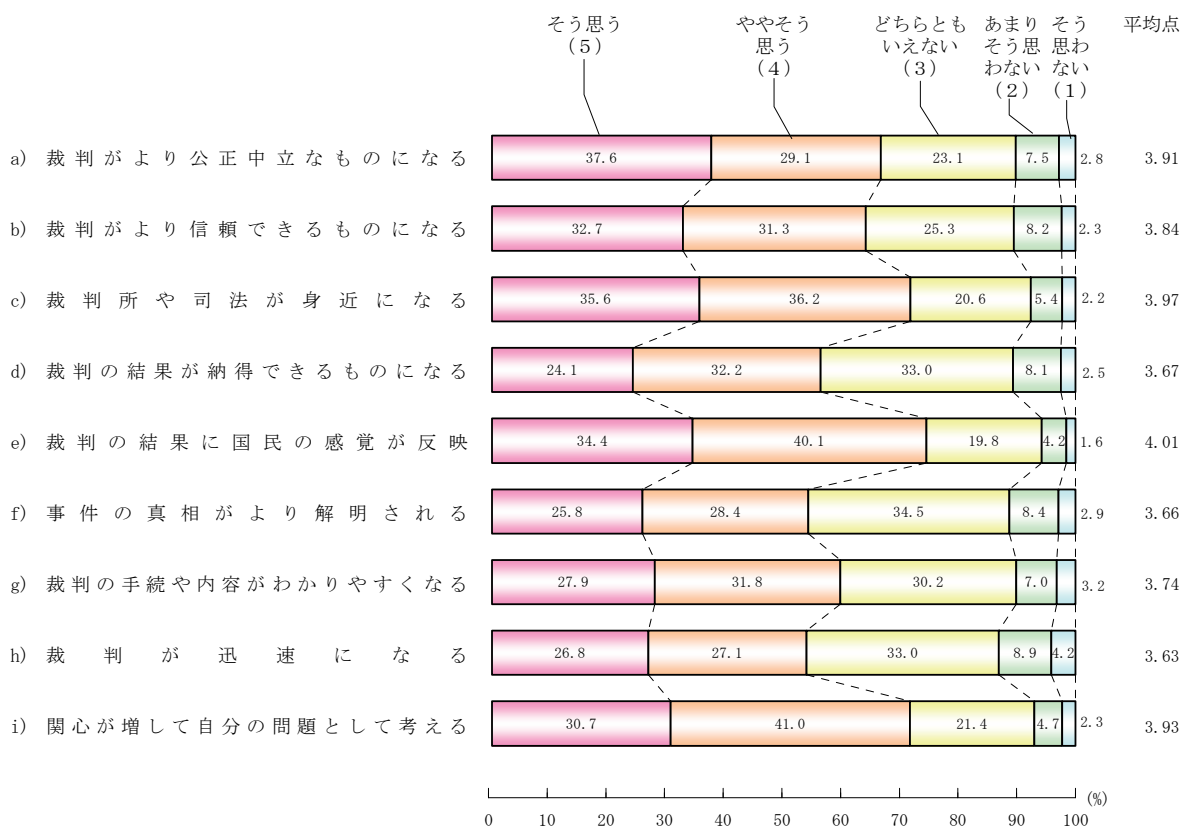
	該当数 (n)	新聞報道	雑誌	書籍等	テレビ報道	ラジオ報道	インターネット	裁判への関与	裁判傍聴	家族・友人・知人等の話	勤務先での話	専門家、識者等の話	特に原因はなく、自分でもそのように考えた	その他	わからない	回答計
F1【性】																
男性	979	70.3	10.4	6.1	89.9	13.4	15.0	2.3	1.4	8.6	5.7	4.5	3.9	0.3	0.1	232.0
女性	1034	64.2	7.0	3.5	91.8	10.5	5.8	1.9	1.3	13.8	3.0	3.2	3.6	0.3	0.2	210.1
F2【年齢】																
20～29歳	257	48.2	7.4	5.4	90.3	4.7	20.6	2.7	0.8	13.6	4.3	4.7	5.8	0.4	0.4	209.3
30～39歳	367	57.8	6.8	4.6	91.0	6.3	19.1	3.0	1.1	11.2	4.6	2.2	3.0	0.5	-	211.2
40～49歳	319	63.3	9.1	3.8	90.0	10.7	11.6	1.3	1.3	9.7	6.6	2.2	3.8	-	-	213.2
50～59歳	320	75.3	12.2	5.6	91.9	16.9	7.2	1.9	1.9	10.0	6.3	5.3	2.5	-	-	236.9
60～69歳	358	79.3	8.7	6.1	91.3	19.6	5.0	2.8	2.2	13.7	3.4	4.7	4.2	0.8	-	241.9
70歳以上	392	73.7	7.9	3.3	90.6	12.0	1.5	1.3	0.8	9.9	1.5	4.1	3.6	-	0.5	210.7
F3【職業】																
お勤め	683	66.3	9.7	5.4	91.7	10.5	16.3	2.9	2.0	9.7	8.8	4.7	2.8	0.1	0.1	231.0
自営・自由業	265	69.1	7.9	6.0	89.4	18.9	8.3	2.3	1.5	12.1	2.3	4.2	4.9	0.8	-	227.5
パート・アルバイト	212	58.5	6.6	4.2	91.0	7.5	8.5	1.4	-	11.3	4.7	1.9	4.2	0.5	-	200.5
専業主婦・専業主夫	445	67.2	5.6	2.7	91.7	11.7	5.4	2.0	1.1	13.3	0.9	2.9	3.8	-	-	208.3
学生	49	49.0	10.2	10.2	85.7	10.2	36.7	2.0	-	16.3	2.0	6.1	4.1	2.0	-	234.7
無職	349	75.4	11.7	4.9	90.8	12.3	4.0	1.1	1.1	9.7	1.7	4.0	3.7	0.3	0.6	221.5
その他	10	60.0	20.0	-	60.0	20.0	-	-	-	40.0	-	-	20.0	-	-	220.0

男女別にみると、「新聞報道」、「インターネット」は男性で高く、「家族・友人・知人等の話」は女性で高くなっている。年齢別にみると、「新聞報道」は50代以上で、「インターネット」は30代以下でそれぞれ高くなっている。

6 裁判員制度の実施により期待すること

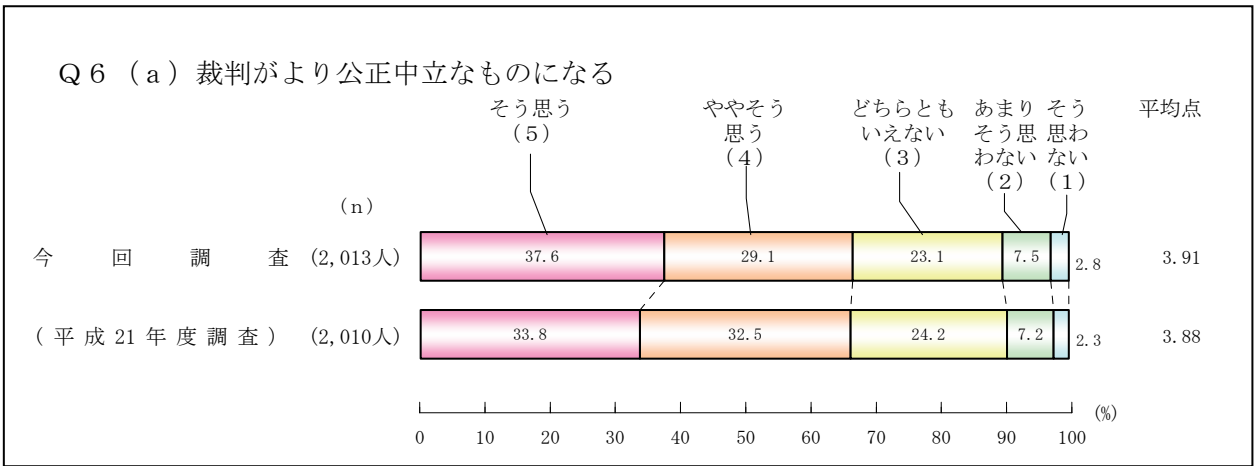
Q6 [回答票6] あなたが裁判員制度の実施により、期待することは何ですか。次の(a)～(i)のそれぞれについて、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=2013人)

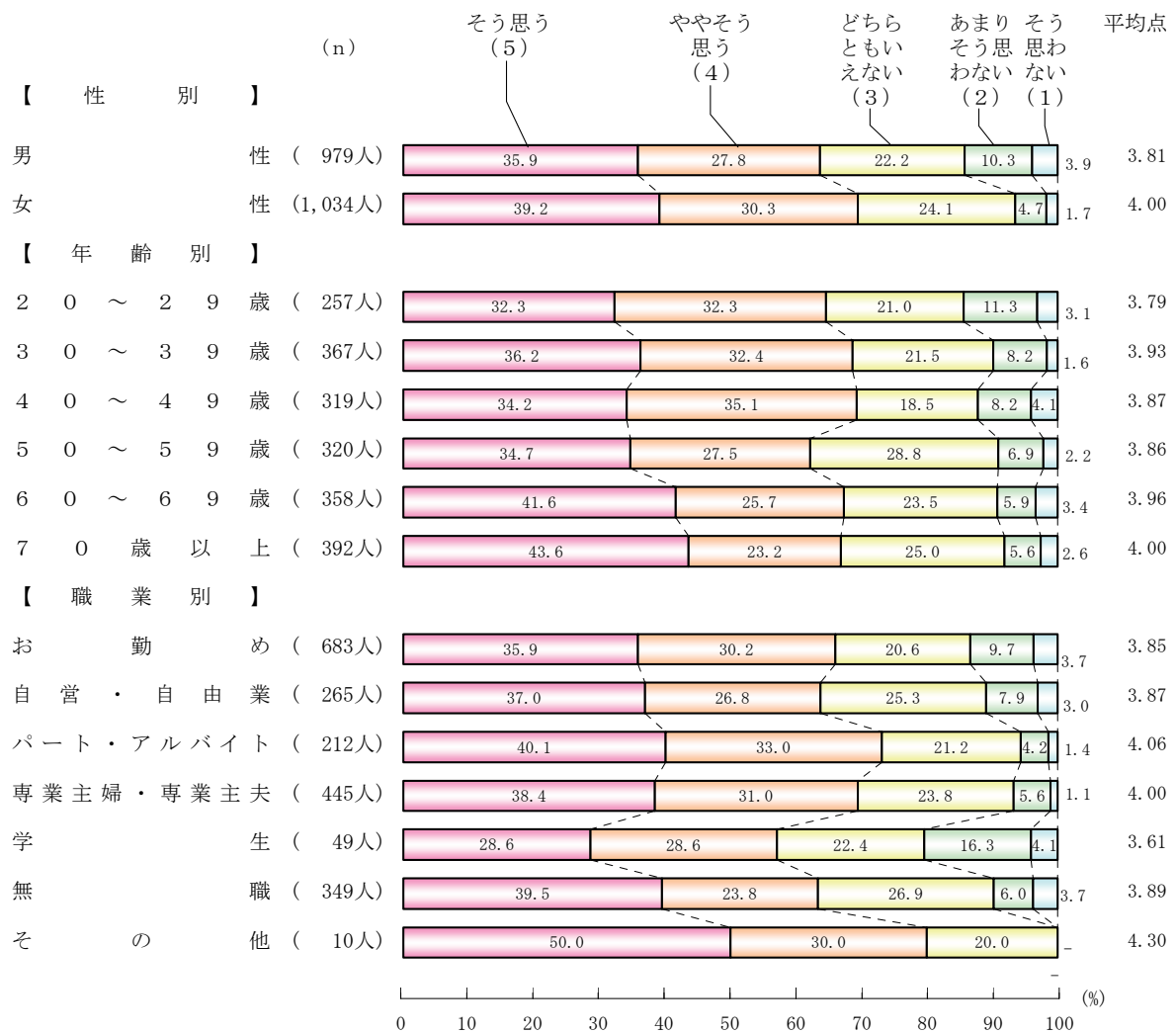


* 平均点は「そう思う」5点、「ややそう思う」4点、「どちらともいえない」3点、「あまりそう思わない」2点、「そう思わない」1点でウエイト処理したものである。

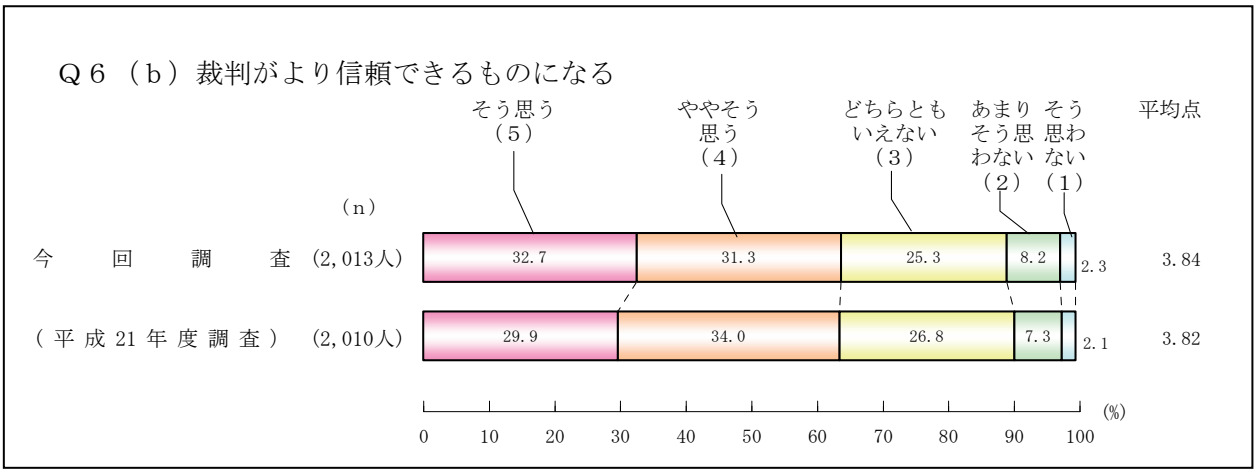
裁判員制度の実施により期待することを、9項目の内容について聞いたところ、平均点が最も高かったのが『裁判の結果（判断）に国民の感覚が反映されやすくなる』（4.01点）、以下、『裁判所や司法が身近になる』（3.97点）、『刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が増して自分の問題として考えるようになる』（3.93点）、『裁判がより公正中立なものになる』（3.91点）、『裁判がより信頼できるものになる』（3.84点）、『裁判の手続や内容がわかりやすくなる』（3.74点）、『裁判の結果（判断）がより納得できるものになる』（3.67点）、『事件の真相がより解明される』（3.66点）、『裁判が迅速になる』（3.63点）となっている。



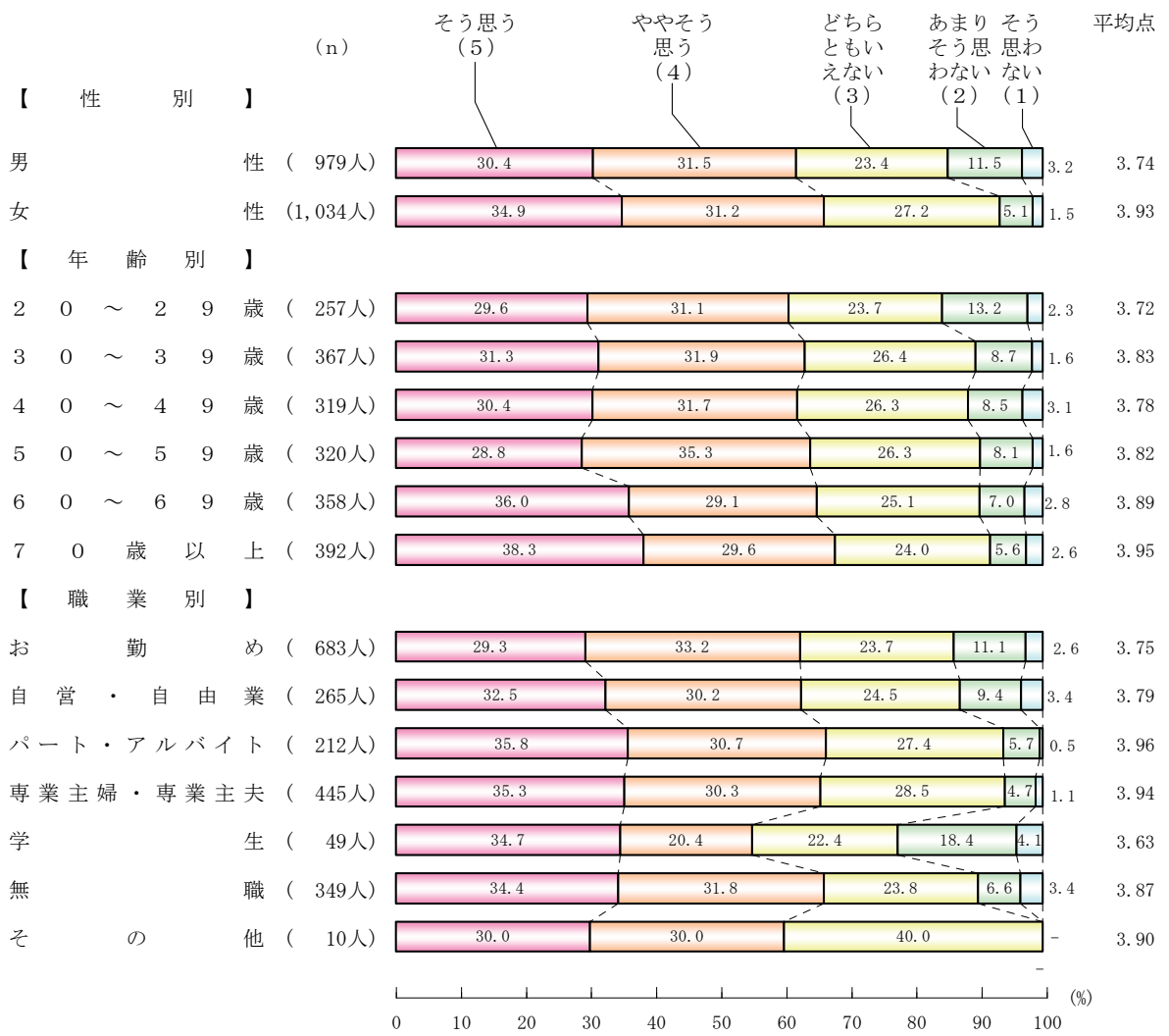
裁判員制度の実施により『裁判がより公正中立なものになる』ことに対する期待では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は 66.7%，『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は 10.3%である。平成 21 年度調査と比べて、大きな変化はみられない。



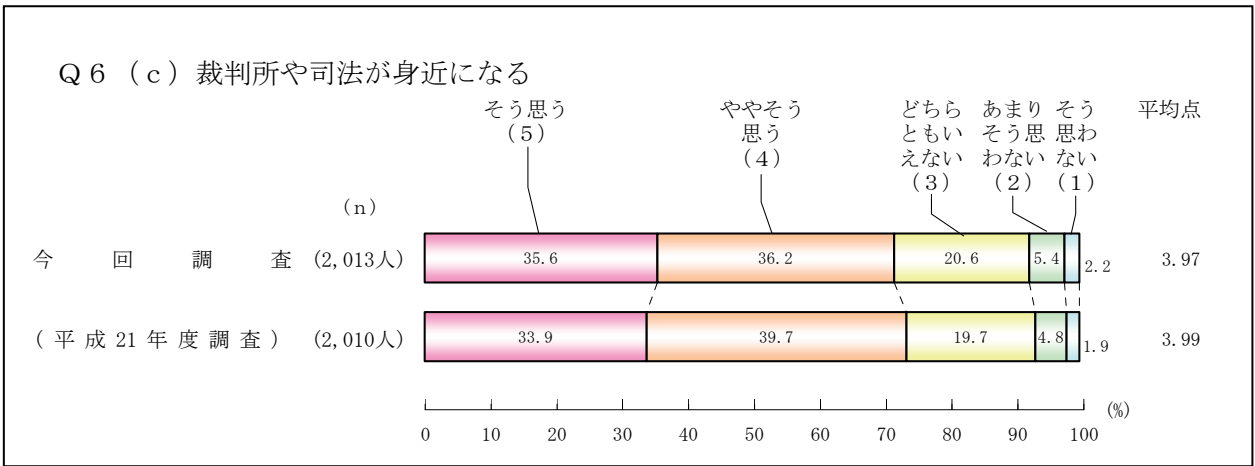
『裁判がより公正中立なものになる』ことに対する期待について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、女性で高く、年齢別にみると、大きな差はみられない。



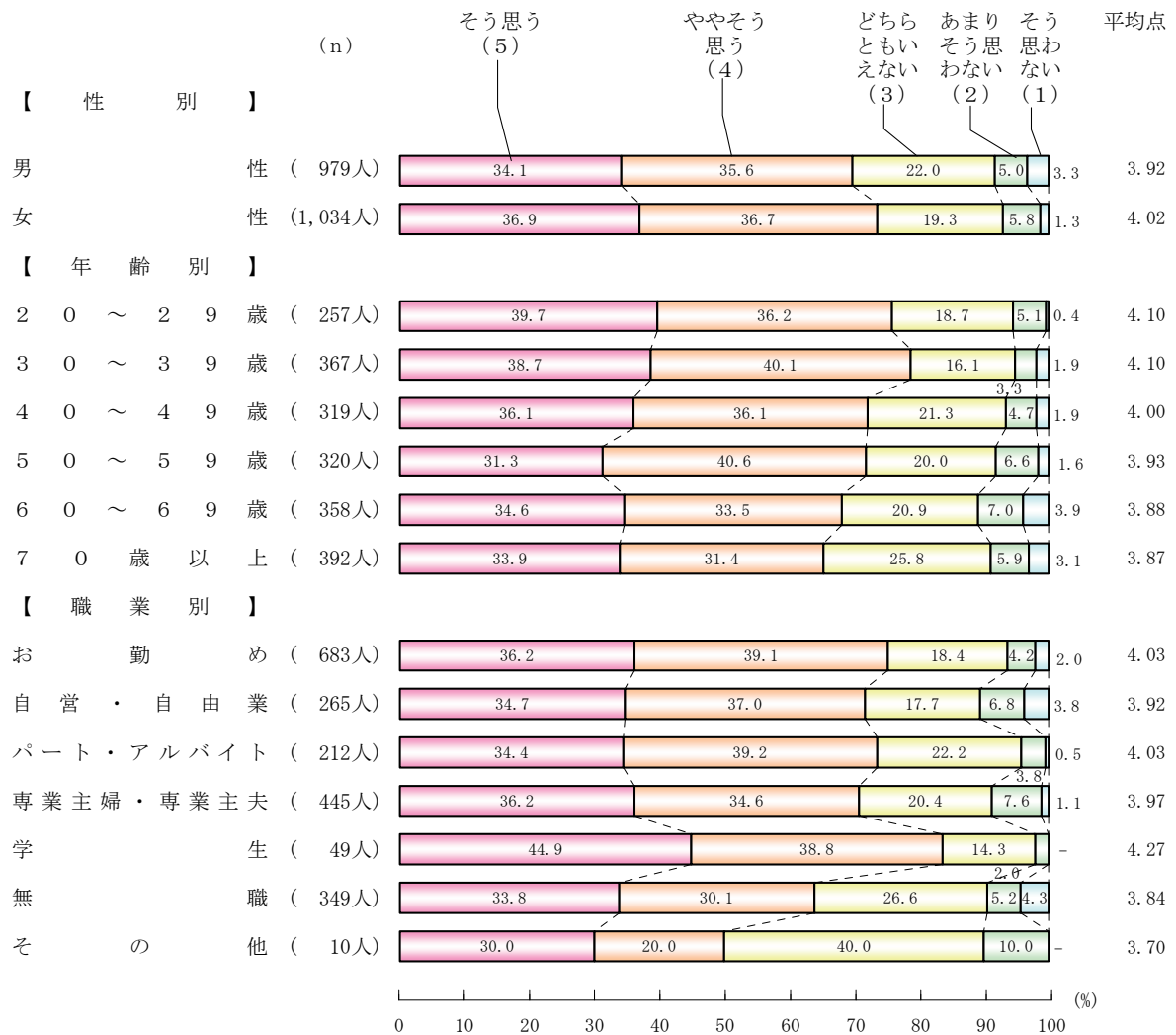
裁判員制度の実施により『裁判がより信頼できるものになる』ことに対する期待では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は 64.0%，『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は 10.5%である。平成21年度調査と比べて、大きな変化はみられない。



『裁判がより信頼できるものになる』ことに対する期待について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、男性より女性で高く、年齢別・職業別にみると、大きな差はみられない。

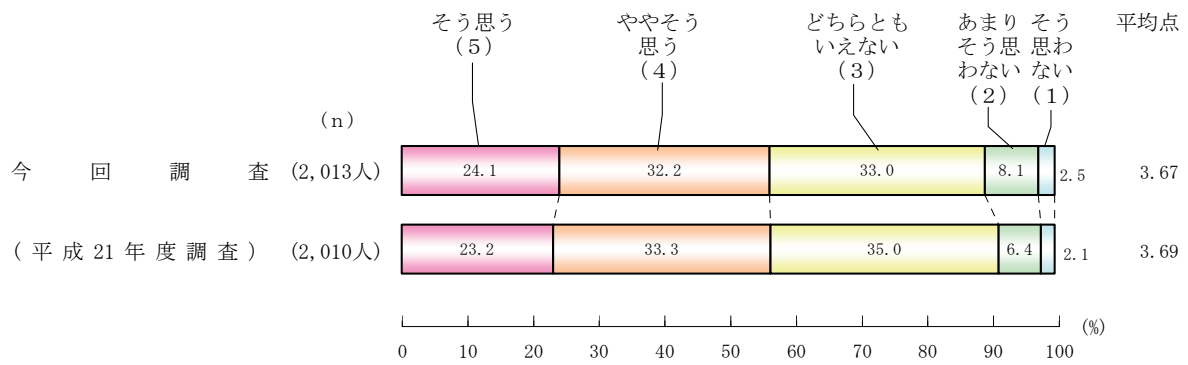


裁判員制度の実施により『裁判所や司法が身近になる』ことに対する期待では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は71.8%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は7.6%である。平成21年度調査と比べて、大きな変化はみられない。

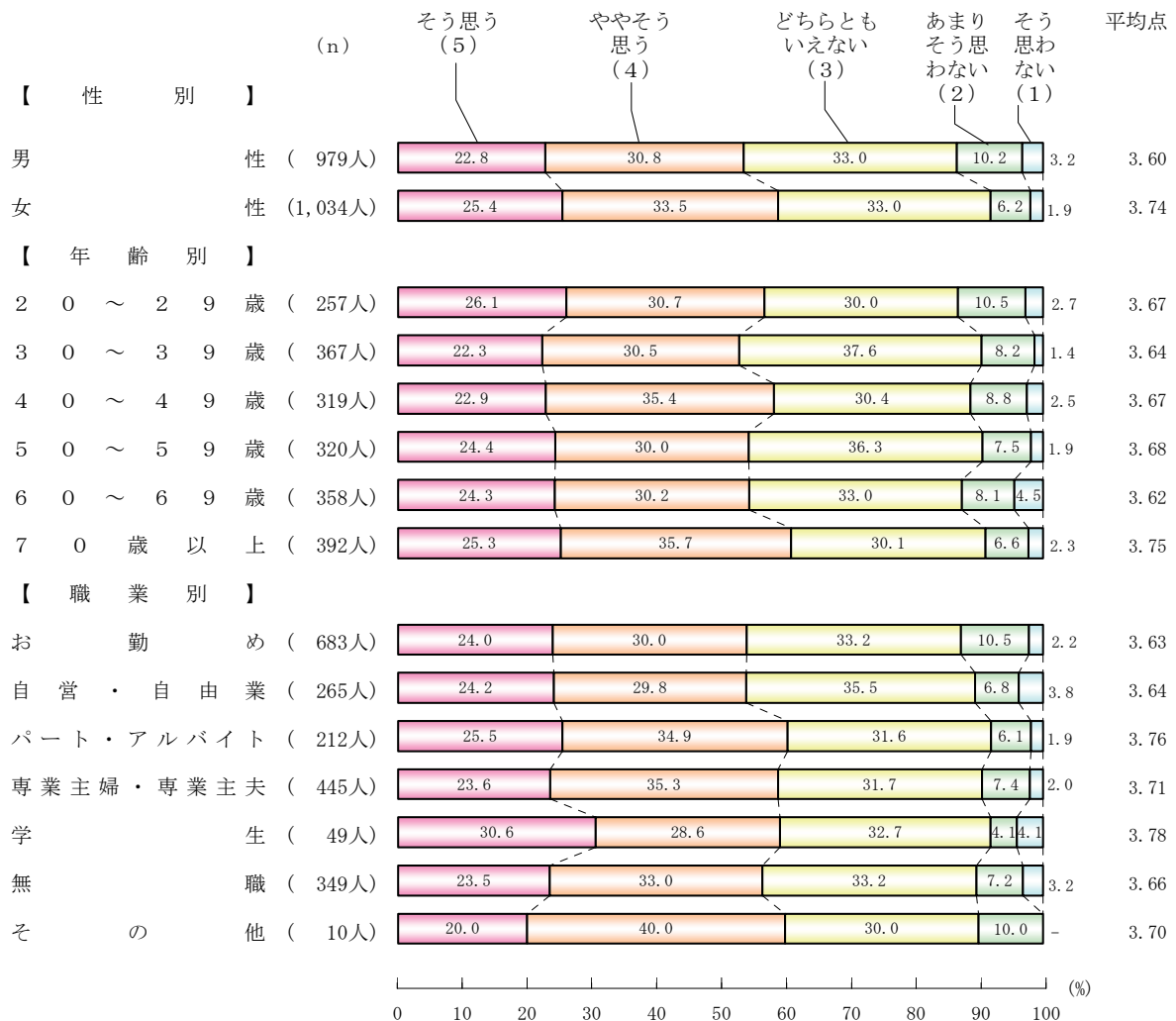


『裁判所や司法が身近になる』ことに対する期待について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別では大きな差はみられないが、年齢別にみると、30代で最も高く、70歳以上で最も低くなっている。職業別にみると、無職で低くなっている。

Q6 (d) 裁判の結果(判断)がより納得できるものになる

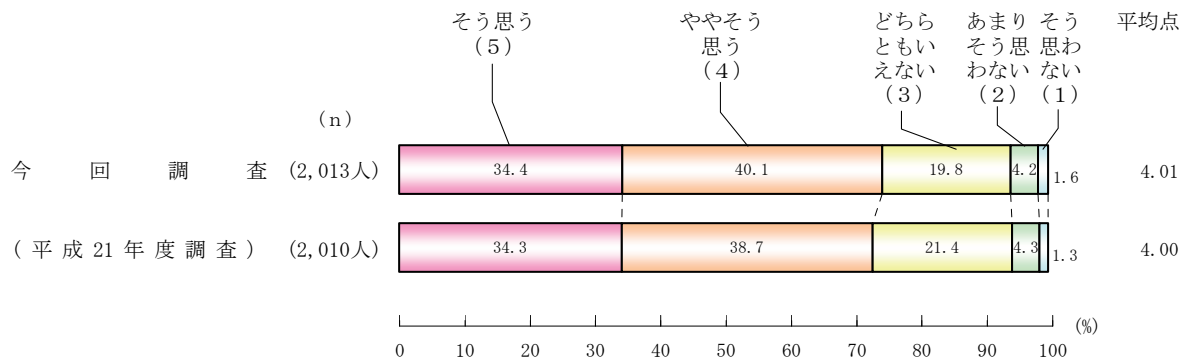


裁判員制度の実施により『裁判の結果(判断)がより納得できるものになる』ことに対する期待では、『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)は56.3%、『そう思わない』(「あまりそう思わない」+「そう思わない」)は10.6%である。平成21年度調査と比べて、大きな変化はみられない。

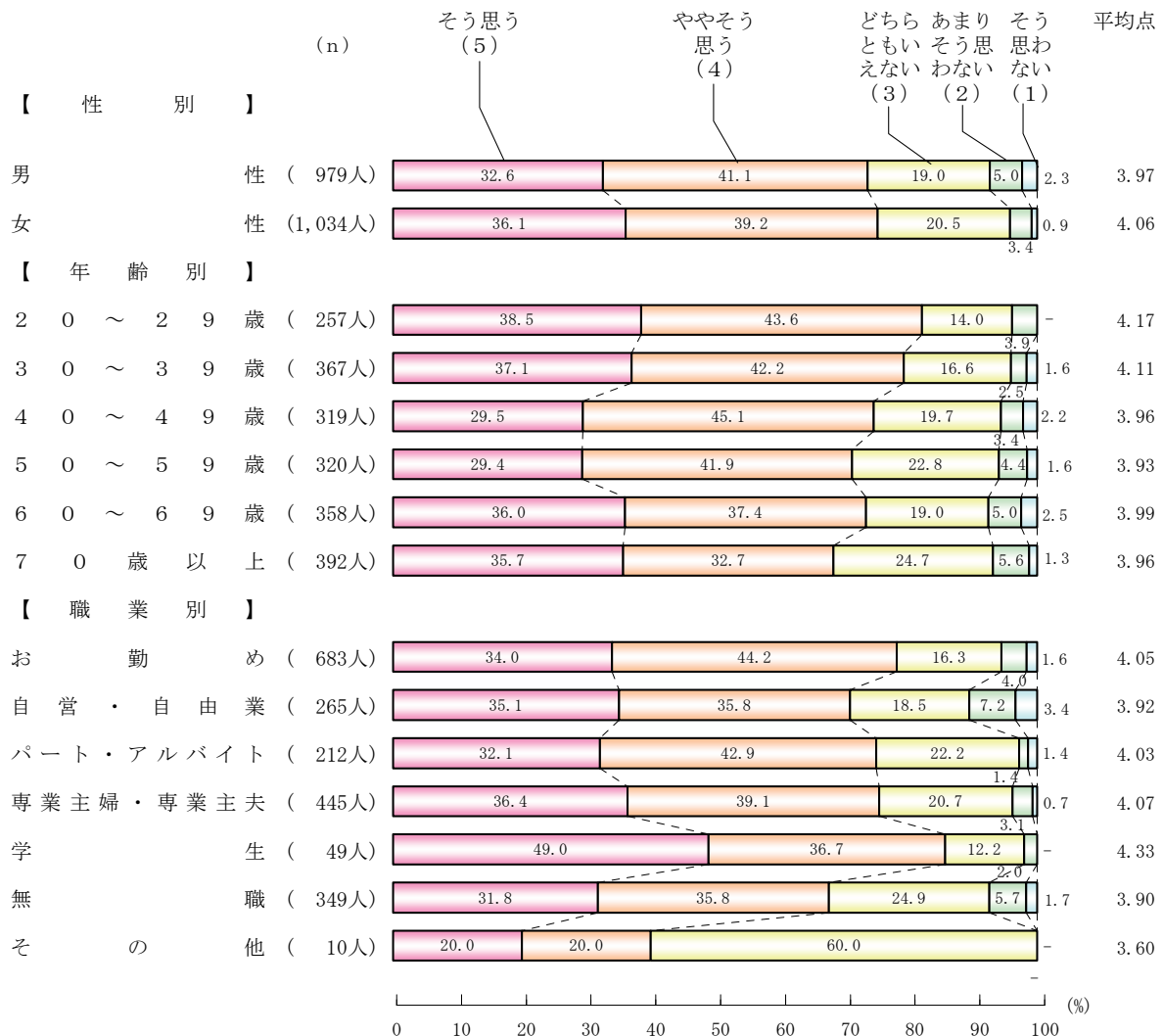


『裁判の結果(判断)がより納得できるものになる』ことに対する期待について、『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)と答えた者の割合は、男女別にみると、女性で高く、年齢別にみると、70歳以上が最も高い。職業別にみると、大きな差は見られない。

Q6 (e) 裁判の結果（判断）に国民の感覚が反映されやすくなる

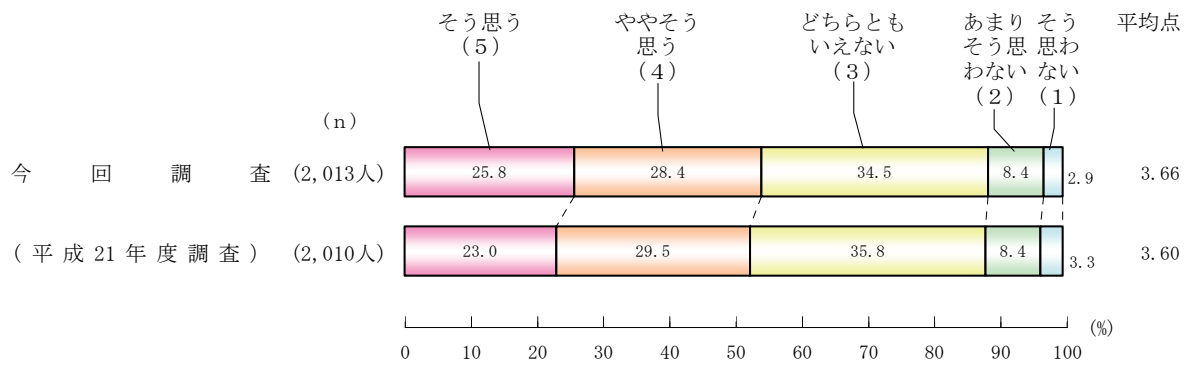


裁判員制度の実施により『裁判の結果（判断）に国民の感覚が反映されやすくなる』ことに対する期待では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は74.5%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は5.8%である。平成21年度調査と比べて、大きな変化はみられない。

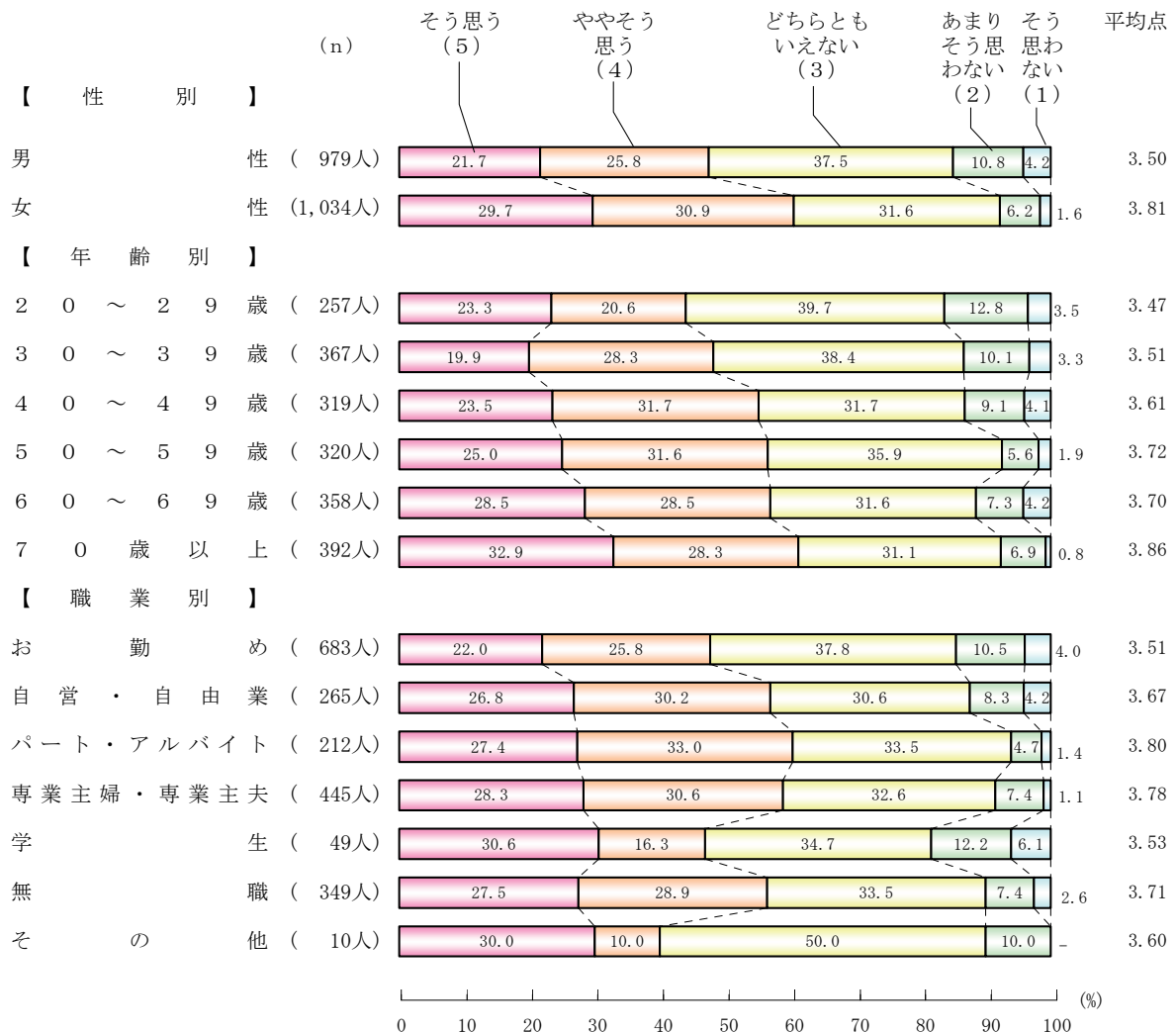


『裁判の結果（判断）に国民の感覚が反映されやすくなる』ことに対する期待について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別ではほとんど差はみられないが、年齢別にみると、20代・30代で高く、70歳以上で低くなっている。職業別にみると、無職で低くなっている。

Q6 (f) 事件の真相がより解明される



裁判員制度の実施により『事件の真相がより解明される』ことに対する期待では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は54.2%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は11.3%である。平成21年度調査と比べて、大きな変化はみられない。



『事件の真相がより解明される』ことに対する期待について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、女性で高く、年齢別にみると、70歳以上で高く、20代・30代で低くなっている。